

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	34	大学等名	比治山大学、 比治山大学短期大学部
テーマ	テーマ I・II 複合型		

### 【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

### 【コメント】

<優れている点>

- ・地方の私立大学・短期大学併設型の小規模学園の教育システムの最適モデルを目指し、平成 23 年度に策定された「比治山大学・比治山大学短期大学部 中期総合プラン 2010（平成 22 年）-2016（平成 28 年）」をベースに、既に教育の質的転換に着手しており、本事業においてアクティブ・ラーニングの視点を強化し、更なる進化に向けて取り組んでいることは評価できる。また、とかく教員個別の対応となっている改善を、全学的な取組へと進化されていることも評価できる。
- ・AP セミナーからコア・アクティブ・ラーニング科目への組み立て、アクティブ・ラーニング導入教員 100%達成など、小規模大学としての強みを生かした取組は評価できる。
- ・学長のリーダーシップの下、質的転換加速化本部を立ち上げ、多くの関係者を巻き込みながら事業を推進していることは評価できる。

<改善を要する点>

- ・「4×3の比治山力」育成を目指した「比治山型アクティブ・ラーニング」をどう成長させ差別化を図るのか、また、学生情報システムを定着させた上で、入学から卒業までの間において学生がどう変化していったのか、時系列的なフォローが必要である。
- ・各取組の PDCA が、大学・短期大学部全体の内部質保証の中核に位置付けられることが重要であり、学修成果の可視化がアクションにつながる部分の強化を検討する必要がある。
- ・外部評価委員会については、保護者代表や産業界の人材も加えていることは評価するが、今後は、組織のトップに加え、実務担当者クラスも加えることで、目指す学生の主体性をよりきめ細かくアセスメントできると考える。また、アクティブ・ラーニング推進室の機能強化や、学生にとってのメリット等をより明確にしていくことが必要である。